



MAEBASHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY

前橋工科大学 学長 星 和彦

前橋工科大学は、科学と工学を基礎に、現在の社会がより一層の快適性、安全性、そして持続可能性をもちうる方向性を探究しています。公立の工学部単科大学として、大学院もあわせ1,300名ほどの規模ですが、社会環境工学科、建築学科、総合デザイン工学科、生命情報学科、システム生体工学科、生物工学科の、多様性に富み、先進的な6学科から構成されています。ここで各学科を簡単に紹介しましょう。

社会環境工学科は、道路建設から環境の構築まで幅広く人間生活を支えます。建築学科は、建物で、またまちづくりで工学と芸術、文化の統合を考えます。総合デザイン工学科は、工学を基礎に様々な分野のデザインに取り組みます。また社会人も学べるように、夜間の時間帯を中心に開講しています。生命情報学科は、プログラミング技術で情報科学と生命科学の融合と展開をはかります。システム生体工学科は、工学技術と医療、福祉を結び領域を開拓し、高齢化社会にも対応します。生物工学科は、生物の備える能力を活用し、健康と食品と環境から新たな分野を生みだします。また高等学校の理科教員を養成する教職課程も設置しています。このように、本学はひと

つつとつ輝く、個性ある学科が特色です。

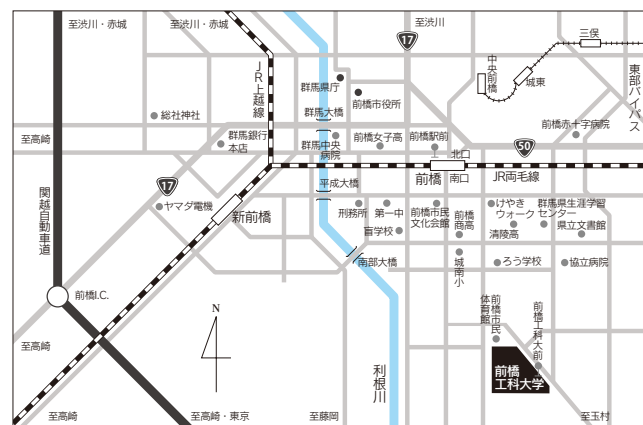
昭和27年4月に夜間の前橋市立工業短期大学（建設工学科）が設置され、平成6年4月に情報工学を加えて昼夜開講制短期大学となり、そして平成9年4月、その母体のうに四年制大学、前橋工科大学が誕生しました。その後、大学院工学研究科博士前期課程（平成13年4月）、大学院工学研究科博士後期課程（平成15年4月）を開設しました。平成19年4月には現在の6学科へと発展を遂げ、さらに平成25年4月には公立大学法人前橋工科大学に移行するとともに、大学院工学研究科博士後期課程を1専攻として新たなスタートをきりました。

21世紀は地方の時代ともいわれ、地域を基盤とする公立大学の役割は重要性を帯びています。地域に活力をもたらすことが社会全体を支えることになり、世界に通ずる拡がりを生みだすことにもなります。本学は、「地域社会の時代を創る知と技の育成」を目標に、人間性と創造性をあわせもつ技術者の教育にあたります。そのため、地域の諸大学や研究機関、企業や行政などと、さらには海外の大学とも積極的な連携を推進していきます。

短期大学として開学以来60年あまり、様々な改革を経てここまで展開してきましたが、教育と研究に完成はありません。本学を取り巻く地域と、学ぼうとするみなさまとともに、さらなる成長に挑戦していきます。現代の直面する問題を着実にとらえ、これからの社会が求めるところを視野に入れて、様々な課題に取り組み続けます。

富岡製糸場でも知られる群馬県に位置する、関東平野の北端、自然と歴史の豊かな前橋で学びませんか。地域社会のため、そして群馬からさらに世界に視野を拡げ、行動する人を求めます。人と科学・工学が紡ぐ21世紀の社会を創出すること、それが本学のテーマです。

ACCESS



●JR両毛線前橋駅からバスで約10分 前橋工大大前下車



前橋工科大学

- 関越自動車道・高崎I.C. or 前橋I.C. から約15分
- 北関東自動車道・前橋南I.C. から約10分